

## 代表質問



### 湯沢温泉ロープウェイは 将来的にも欠かすことので きない観光資源である



産業建設常任委員会代表  
柿崎直治

産業建設常任委員会を代表して質問いたします。最初に湯沢町の基幹産業である観光事業の振興について2点ほど質問いたします。

#### 質問

町長が施政方針でも述べておられる「四季型観光を視野に入れた新たな発想による観光施策への取り組み」とは、どのようなものか伺います。

#### 町長答弁

平成4年頃では1千万の観光客人込み数も昨年は58万と約半分に減少し、中でも冬季のスキー観光産業が現在危機的状況にあることは充分認識しております。湯沢町には雪の無いシーズンにお客さんと呼べる観光資源がほぼありません。冬季が低迷なら雪の無いシーズンにお客さんを呼ぶ方が全体的に観光客を増加させる早急な問題解決ではないかと考えております。例えば安心して食べられる地元農産物の地産地消

システムづくり、温泉保養と観光を連携した長期滞在システムづくり、体験的観光を通じた地場産業の充実育成のためのシステムづくりなど、関係する団体と協議をしながら進めてまいりたいと思っております。また、観光立町推進という面でも4つの専門部会の活動を支援する中で斬新な提案があることも期待をしている次第です。

#### 質問

今年度は50年ぶりの大雪の年となり連日首都圏では大雪の災害情報が報道され、それら情報による風評被害もスキー客入込み減の大きな要因であったと思われまます。これらに対して今後町はどのように対応していくか、伺います。

#### 町長答弁

12月から2ヶ月あまり続いた豪雪はスキー場の雪崩を誘発し、また公共交通を寸断し、更には過剰なまでの報道などにより大きな風評被害となり

ました。このため県の観光課でも風評被害一掃のイベントを1月27日から3日間計画し、湯沢町も参加しました。他に湯沢町としても議会、町観光協会と共に旅行代理店を訪問したほか、スポーツ紙6紙にキャンペーン記事を取り上げてもらうなど誘客活動をしてまいりました。今後は首都圏の夕刊紙、地下鉄の車内広告などでの春スキーのPRで回復を図っていきたいと考えております。

#### 質問

昨年来、観光事業の民営化については観光事業検討会で数回の審議を重ね民営化案が示され、町としてもその方向で進めているという報告が議会にありました。新町長としての今後の方針と現在までの検討状況を伺います。

#### 町長答弁

湯沢町のロープウェイ事業は観光の目玉と思っております。民間委託については解決しなければな

らないさまざまな問題がありますので、それらについて誠意をもって対応していくつもりです。

#### 質問

多大な町民の税金をつぎ込んで造成した上中子分譲地は今だ一区画も売れず大きな問題となっております。町長の今後の対応について伺います。

#### 町長答弁

この分譲地については昨年秋季に再分譲に向けて販売価格、分譲方式などについて調査しました。価格については1㎡当たり1万9千円前後に、分譲方式は一時に高額な資金を必要としない借地権、所有権分譲方式などを考えております。地域経済の発展のためにはまず定住人口の増加が必要でありますので湯沢の持つ魅力を幅広くアピールし、情報を発信して、販売に努めていきたいと思っております。